

①

言語 *Les langues* は、それがいくつも存在していて、最高の言語 *la suprême* を欠いているという点において、不完全である。すなわち、考えるということは、何の付属物もなしに、呟くこともなしに、また無言のままに、不死の言葉 *l'immortelle parole* を書くということだが、地上では特有の語法 *idiomes* の多様性が、語 *les mots* を、さもなければ、それ自体が物質的に真理である唯一回の打込みによって存在を得るであろう語を、ひとが口にするのを妨げる。(マラルメ『ディヴァガシオン』所収、「詩の危機」より—Mallarmé, *Œuvres complètes* II, Gallimard, 2003, p. 208)

②

人間は語る。我々は、覚めていても、夢をみても語っている。我々は常に語るものである。たとえ、一語も声に出して発することなく、ひたすら耳をすませて聴いたり、何か読みふけているときでさえもそうであるし、さらには、聴いたり読んだりする代りに、仕事に打ち込んでいたり、余暇を楽しんで我を忘れている場合でも、語り続けているものである。(ハイデガー『言葉への途上』亀山健吉・ヘルムート・グロス訳、創文社、1996年、3頁—Heidegger, *Gesamtausgabe Bd.12 Unterwegs zur Sprache*, Vittorio Klostermann, 1985, S. 9)

③

| | |
|------------------------------------|--------------------|
| Wenn der Schnee ans Fenster fällt, | 雪が窓辺に落ち、 |
| Lange die Abendglocke läutet, | 夕べの鐘長く鳴り渡り、 |
| Vielen ist der Tisch bereitet | 世の人多くに食卓整い |
| Und das Haus ist wohlbestellt | 家うちよく設（しつら）えてありたり。 |

| | |
|-----------------------------------|-------------------|
| Mancher auf der Wanderschaft | さすらいを続ける人のいくたりかは |
| Kommt ans Tor auf dunkeln Pfaden. | 小暗き小径を踏みて家の戸口に来る。 |
| Golden blüht der Baum der Gnaden | 恵みの樹は黄金なし花開く |
| Aus der Erde kühlem Saft. | 大地の清冽なる樹液によりて。 |

| | |
|------------------------------------|---------------|
| Wanderer tritt still herein; | さすらい人静かに内に入る |
| Schmerz versteinerte die Schwelle. | 痛みは敷居を石と化したり。 |
| Da erglänzt in reiner Helle | 汚れなき明るみに輝くは |
| Auf dem Tisch Brot und Wein. | 卓の上なるパンと葡萄酒。 |

(同上、9-11頁)

④

苦痛というのは、分離しつつ凝集させる引き裂きにおいて、結び合わせるもののことである。苦痛は裂け目の繋ぎ目なのである。そして、この繋ぎ目が敷居である。この敷居は二者の間（あいだ）というものを担い熟させ、内と外とに分離した二者を繋ぐ中点となるのである。苦痛は区一別の裂け目を繋ぐ。苦痛とはまさに区一別そのものなのである。（同上、24頁—Ebd., S.24）

⑤

「位置」

石原吉郎

記憶のなかのクラリモンドよ

目をつぶれ

しずかな肩には
声だけがならぶのでない
声よりも近く
敵がならぶのだ
勇敢な男たちが目指す位置は
その右でも おそらく
そのひだりでもない
無防備の空がついに撓（たわ）み
正午の弓となる位置で
君は呼吸し
かつ挨拶せよ
君の位置からの それが
最もすぐれた姿勢である

（『石原吉郎全集』第1巻、花
神社 1979年、5頁）

目をつぶれ
シャワーのような
記憶のなかの
赤とみどりの
とんぼがえり
顔には耳が
手には指が
町には記憶が
ママレードには愛が

そうして目をつぶった
ものがたりがはじまった

自転車にのるクラリモンドの
自転車のうへのクラリモンド
幸福なクラリモンドの
幸福のなかのクラリモンド

⑥

「自転車にのるクラリモンド」

石原吉郎

自転車にのるクラリモンドよ
目をつぶれ
自転車にのるクラリモンドの
肩にのる白い記憶よ
目をつぶれ
クラリモンドの肩のうへの

そうして目をつぶった
ものがたりがはじまった

町には空が
空にはリボンが
リボンの下には
クラリモンドが

（同上、72-74頁）

